自転車同好会

かつらぎ三輪車 ４時間耐久レース

《コメント　太田先生》

かつらぎ三輪車四時間耐久レースとは・・・

この競技は、和歌山県伊都郡かつらぎ町で行われる耐久競争です。競技者はかつらぎ公園特設コース（一周４００ｍ、十一時〇〇分スタート、十五時〇〇分ゴール）を定められた方法によって、四時間走り続け、チェッカーフラッグを受けなければなりません。既定の時間を完走した後、周回数により、その最も多いものが優勝します。

堺工科高等学校自転車同好会チームは、二年前に課題研究で製作した車体を今回改良して出場し、四位で九十九周を周回しました。トータルでは４０㎞走り続けたことになります。

ちなみに、このレースはこれまでに、堺工科の有志の先生方が何度もチャレンジしたレースです。

《コメント
２ＭＡ　山田　凌》

僕はドライバで参加しました。

三輪車レースに参加するにあたって、まずはドライバとしての体力、持久力、テクニックを磨く必要がありました。学校内では練習時間もさほど取れなかったので、自分なりに考え、通学を走行の練習に充てました。いつもなら、通学は時速３０キロメートルで走行をしているところを、レース前は時速４０キロメートルで走行することを、続けました。結果的には、これをしたことによって、体力面よりも、精神面に効果があったように思いました。

レースは過酷でした。当日は寒く、身体がとても冷える上、もう一人のドライバと３０分交替だったので体が温まってきたころに交替となり身体がレースに順応するのに時間がかかりました。結果として、順応して本気で走れたのは、最後の一時間を切った頃だったと思います。タイムを見ても、前半はコース１周３分だったのが、後半は２分１６秒となっていました。

総合的に見て、優勝チームと堺工チームを比較すると後半のコース一周のタイムに、さほど違いはありません。ドライバの体力、技術力も互角でした。負けた決定的な部分は、車体だと思っています。

来年は、三輪車の改良と本格的なトレーニングを行い、３位以内の入賞を目指したいと思います。

《コメント
３ＣＡ　五日市　聖人》

レース開始が早く、当日は６時半に集合、出発だったので、とても眠たかった。会場は前日までの雨で大変ぬかるんでおり、服も靴も泥だらけになった。それでも、みんなはレースに一生懸命だった。

私はドライバで登録したものの、諸事情で乗車しなかった。しかし、乗車できない分、チームのみんなのサポートとして頑張った。特に当日は寒かったので、薪（まき）をくべてたき火を重点的にやった。チームのみんなにも喜んでもらえた。その甲斐もあって、全体で４位になれた。

次はもっといろんなレースに出たい。

《コメント
２ＭＡ　奥村　信哉》

今回、私は監督を務めました。監督の仕事は、レースに使う三輪車の審査や、レース出場者の登録など、事務的な作業をしました。

【 追い風を味方にして力走 】

【 たき火で寒さをしのぐ ← 】

【 レースを終えて 】

レースを見ていると、自分のチームと全く違うアイデアの三輪車がたくさん出ていました。自分たちでは思いつかないアイデアに触れることができて、驚きの連続でした。

私が一番印象に残っているのは、レース参加者の光景です。一般参加型のレースなので大人から子どもまでいろんな年齢の人たちが参加していました。各々がレースにいろんな目標をもって挑む雰囲気に一緒になれたことが、とても楽しかったです。

《 次号につづく 》